

第 3 章

福岡県の地域特性

第3章 福岡県の地域特性

本章では、福岡県の地域特性（自然的条件、社会的条件）について示します。

1 自然的条件

(1) 地勢

本県は、筑前海、豊前海、有明海の三つの海に面しています。

主な山地としては、脊振山地（脊振山 1,055m）、英彦山地（英彦山 1,200m）、釈迦岳山地（釈迦岳 1,230m）があります。

河川では、遠賀川、筑後川、矢部川などの大河が平野部を形作りながら県土を縦横断しています（図 3-1）。

これら大河によって形作られた平野部や沿岸域には、まとまった面積の平坦地が多く、総面積に対する可住地面積は 55.4%で全国第8位（「統計でみる都道府県のすがた 2021」（総務省））となっています。

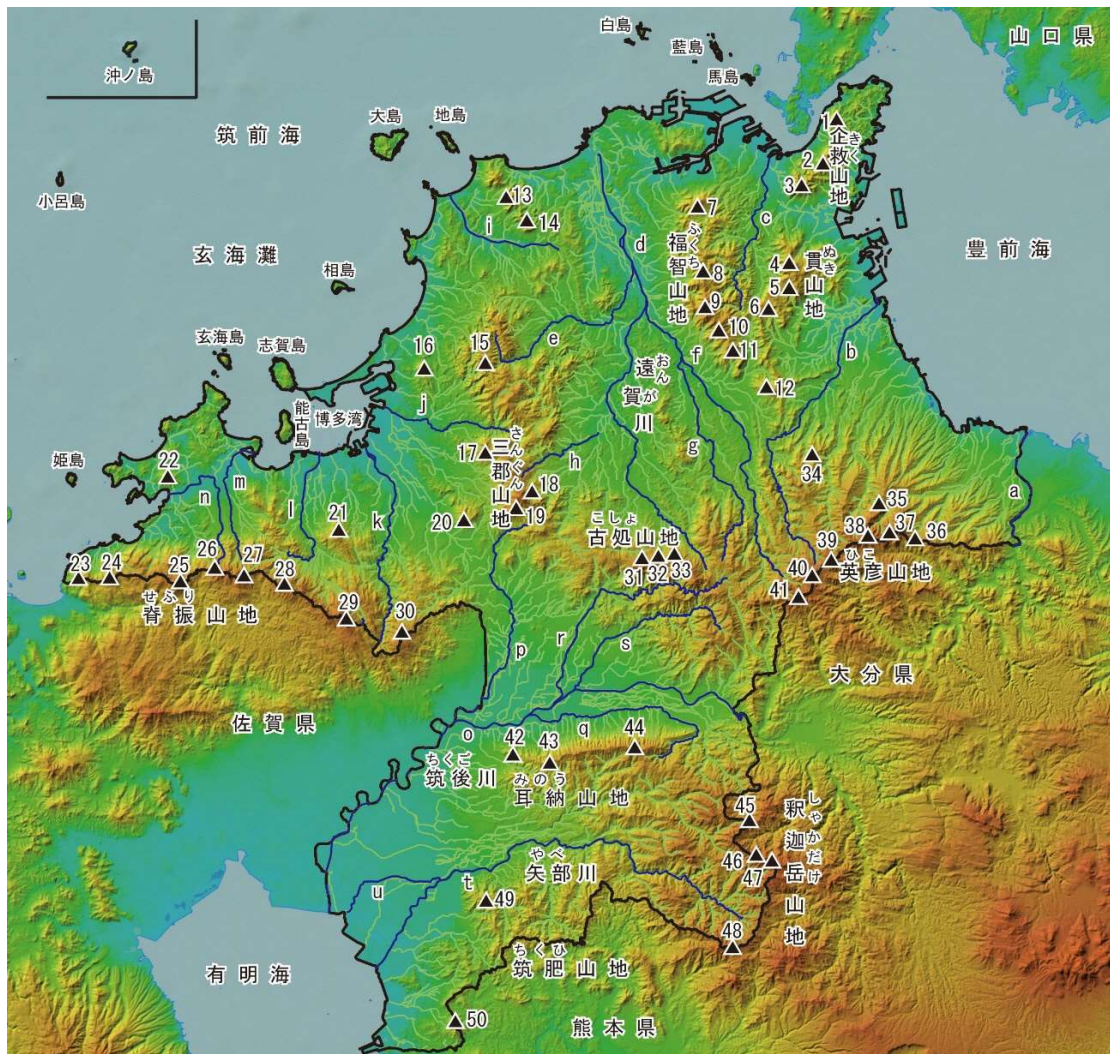


図 3-1 地勢図（主な山・川）

【出典：「令和2年版 福岡県環境白書」（福岡県）を基に福岡県作成】

《山地名称》

1	風師山 <small>かざし</small>	11	香春岳 <small>かむら</small>	21	油山 <small>あぶら</small>	31	古処山 <small>こじょ</small>	41	岳滅鬼山 <small>がくめつぎ</small>
2	戸上山 <small>とのかみ</small>	12	飯岳山 <small>いひだけ</small>	22	可也山 <small>かや</small>	32	屏山 <small>へい</small>	42	高良山 <small>こうら</small>
3	足立山 <small>あだち</small>	13	孔大寺山 <small>くんだいじ</small>	23	十坊山 <small>じゅうぼう</small>	33	馬見山 <small>まみ</small>	43	発心山 <small>はつしん</small>
4	贄山 <small>ね</small>	14	城山 <small>しろ</small>	24	浮岳 <small>うきだけ</small>	34	蔵持山 <small>くらもち</small>	44	鷹取山 <small>たかとり</small>
5	平尾台 <small>ひらおだい</small>	15	犬鳴山 <small>いぬな</small>	25	羽金山 <small>はねがね</small>	35	求菩提山 <small>くぼだい</small>	45	熊渡山 <small>くまわたり</small>
6	竜ヶ鼻 <small>りゅうがはな</small>	16	立花山 <small>たちばな</small>	26	雷山 <small>らい</small>	36	雁股山 <small>かりまた</small>	46	御前山 <small>ごぜん</small>
7	皿倉山 <small>さらくら</small>	17	若杉山 <small>わかすぎ</small>	27	井原山 <small>いはら</small>	37	経読岳 <small>きやうよみ</small>	47	釈迦岳 <small>しやくわ</small>
8	尺岳 <small>しゃくだけ</small>	18	三都山 <small>さんと</small>	28	金山 <small>かみ</small>	38	犬ヶ岳 <small>いぬが</small>	48	三国山 <small>みくに</small>
9	福智山 <small>ふくち</small>	19	宝満山 <small>ほうまん</small>	29	脊振山 <small>せふり</small>	39	鷹ノ巣山 <small>たかのす</small>	49	清水山 <small>しみず</small>
10	牛斬山 <small>うしきり</small>	20	四王寺山 <small>しおうじ</small>	30	九千部山 <small>くせんぶ</small>	40	英彦山 <small>ひこ</small>	50	三池山 <small>みいけ</small>

《河川名称》

a	山国川 <small>やまくに</small>	f	彦山川 <small>ひこさん</small>	k	那珂川 <small>なか</small>	p	宝満川 <small>ほうまん</small>	u	沖端川 <small>おきのはた</small>
b	今川 <small>いま</small>	g	中元寺山 <small>ちゅうげんじ</small>	l	室見川 <small>むろみ</small>	q	巨瀬川 <small>こせ</small>		
c	紫川 <small>むらさき</small>	h	内住川 <small>ないぢゆう</small>	m	瑞梅寺川 <small>ずいばいじ</small>	r	小石原川 <small>こいしわら</small>		
d	遠賀川 <small>おんが</small>	i	釣川 <small>つり</small>	n	雷山川 <small>らいざん</small>	s	佐田川 <small>さだ</small>		
e	犬鳴川 <small>いぬな</small>	j	多々良川 <small>たたら</small>	o	筑後川 <small>ちくご</small>	t	矢部川 <small>やべ</small>		

(2) 気候

ア 福岡県の気候特性

本県は、年間を通じて温暖的要素が強い気候です。一方で日本海側に位置する福岡、北九州地域は冬季には大陸からの季節風が吹きつけるため、曇天の多い傾向を示します。また筑後地域、筑豊地域は、三方を山に囲まれており、夏暑く冬寒い、一日の寒暖の差の大きい内陸型・盆地特有の気候を示しています（図3-2、図3-3）。

福岡県の年平均気温は17.9℃で都道府県別では宮崎県に次いで全国で4番目に高く、降水量では全国で21番目の量となっています（表3-1）。

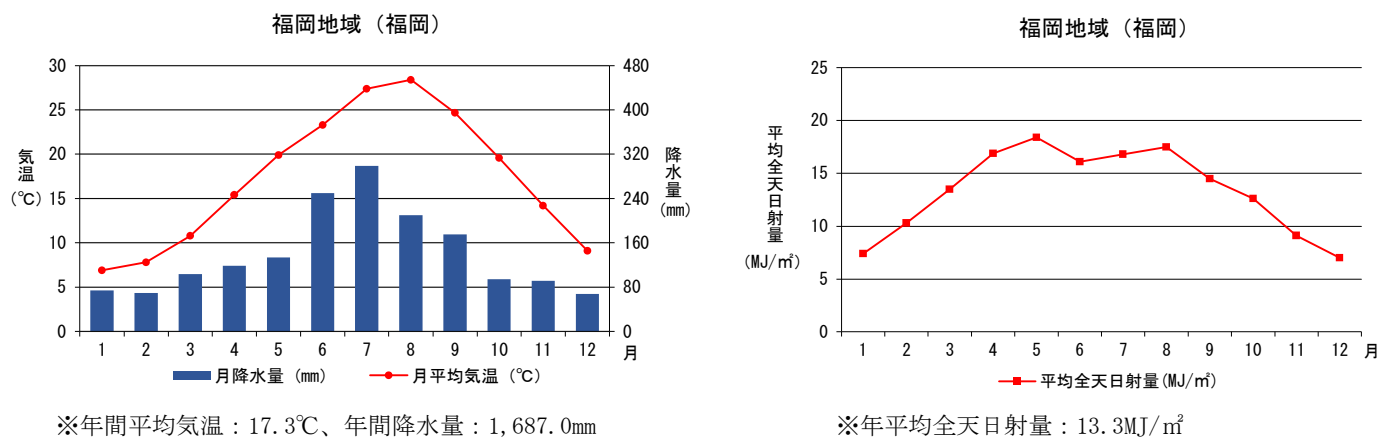


図 3-2 月平均気温・月降水量（左）、平均全日射量（右）、（1991～2020年の平年値） ※括弧書きは観測点を示す。

【出典：気象庁ホームページ（過去の気象データ）を基に福岡県作成】

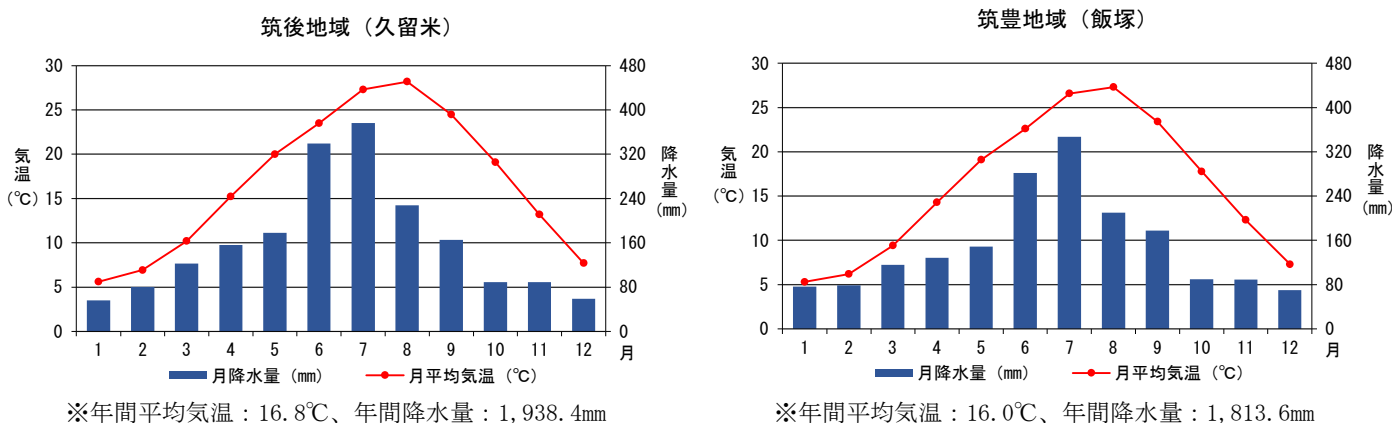


図 3-3 月平均気温・月降水量（1991～2020年の平年値） ※括弧書きは観測点を示す。

【出典：気象庁ホームページ（過去の気象データ）を基に福岡県作成】

表 3-1 福岡県年平均気温等と都道府県順位（2019年）

	年平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	快晴日数	降水日数	雪日数
福岡県	17.9℃	31.9℃	4.4℃	1,982.0h	1,608.5mm	21日	110日	4日
都道府県順位	4位	33位	44位	24位	21位	18位	26位	28位

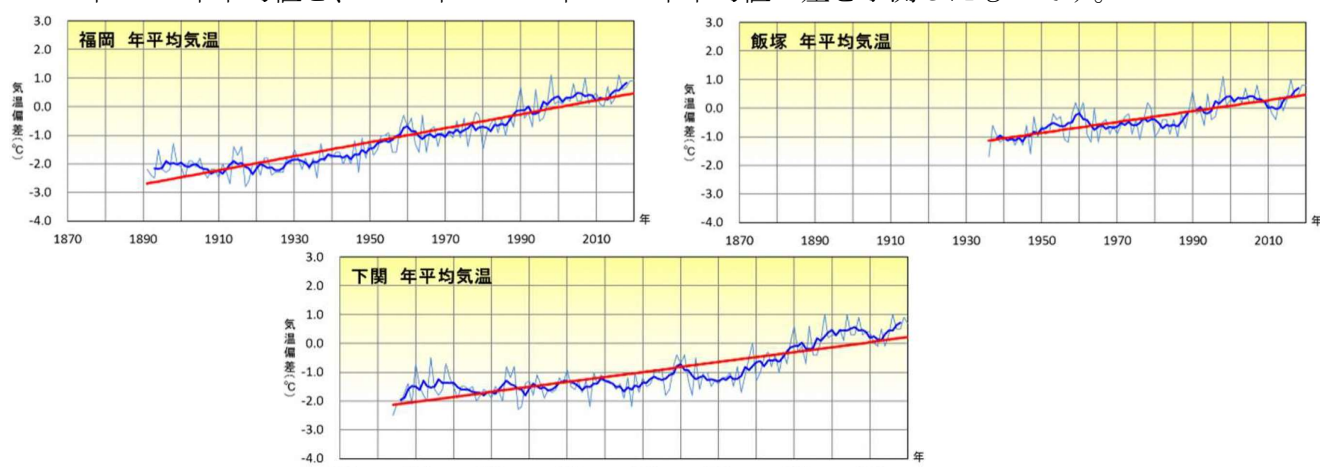
【出典：「統計でみる都道府県のすがた2021」（総務省）を基に福岡県作成】

イ 気候変動の状況（現況・将来）

(ア) 年平均気温

本県の位置する九州北部地方では年平均気温は、50年あたり1.52℃の割合で上昇しています。観測地点ごとに見ると本県北部の福岡で2.45℃/100年、内陸部の飯塚で0.95℃/50年、北九州に近い下関で1.73℃/100年と地域差はあるものの、いずれも確実な上昇の傾向が見られます。特に、福岡、下関では日本の年平均気温の上昇（1.26℃/100年：気象庁ホームページより）割合よりも大きくなっており、地球温暖化による上昇に加え、都市化の影響やより地域的な気候変動の影響を受けた結果と考えられます（図3-4、表3-2）。

「九州・山口県の地球温暖化予測情報（第2巻）」によると、将来の福岡県の年平均気温は、現在と比べて、約4.1℃上昇すると予測されています。なおこの予測は、1980年～1999年の20年平均値と、2076年～2095年の20年平均値の差を予測したものです。



青の細線：各年の年平均、季節平均気温の基準値からの偏差、青の太線：5年移動平均
赤の直線：長期変化傾向。基準値は1981～2010年の30年平均値
統計期間：下関は1884～2020年、福岡は1891～2020年、飯塚は1936～2020年

図 3-4 年平均気温の経年変化
【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」（福岡管区気象台）】

表 3-2 平均気温の長期変化傾向

平均気温	単位	年	春 (3～5月)	夏 (6～8月)	秋 (9～11月)	冬 (12～2月)	統計期間 (年)	
全国	℃/100年	1.26	1.49	1.14	1.26	1.19	1898～2020	
九州・山口県		1.74	1.89	1.59	1.94	1.59	1898～2020	
九州北部地方	℃/50年	1.52	1.57	1.35	1.70	1.51	1967～2020	
	℃/100年	下関	1.73	1.88	1.51	1.67	1.79	1884～2020
		福岡	2.45	2.71	1.97	2.80	2.27	1891～2020
	℃/50年	飯塚	0.95	1.15	0.82	1.00	0.86	1936～2020
九州南部	℃/50年	1.28	1.11	1.04	1.55	1.44	1962～2020	
奄美地方		0.73	0.37	0.66	1.02	0.92	1970～2020	

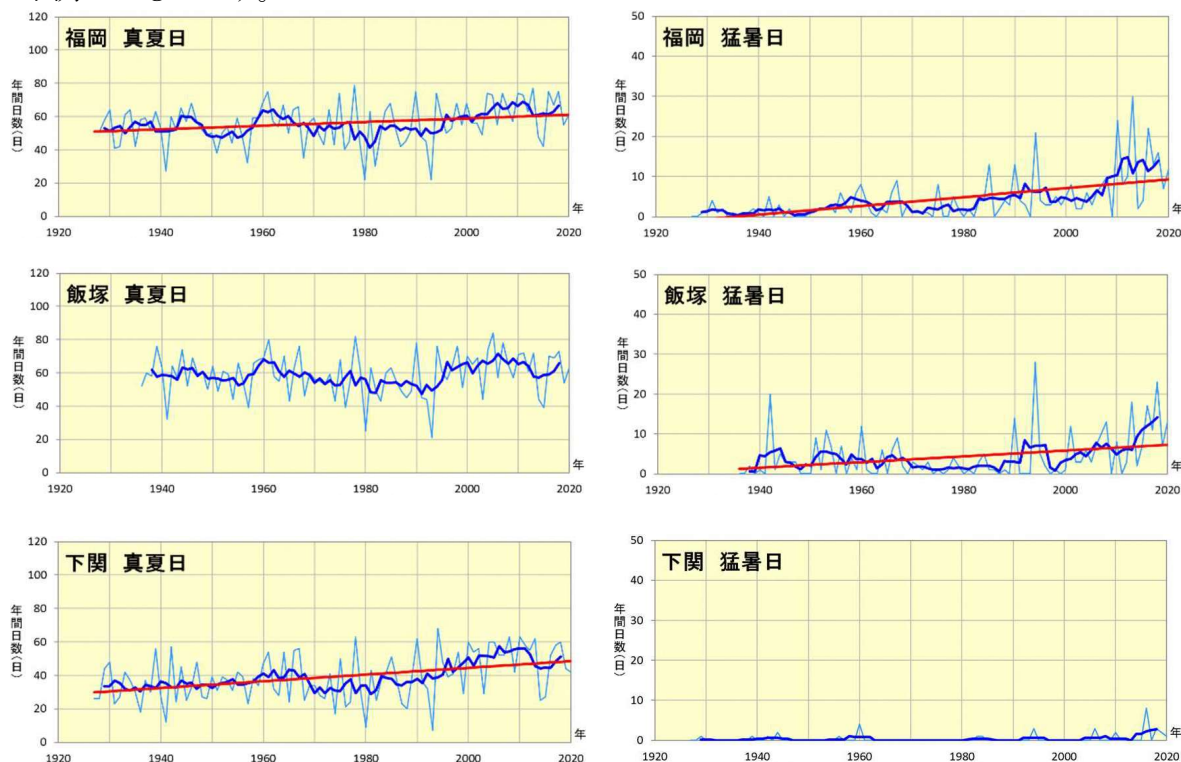
※九州・山口県は、下関、厳原、福岡、佐賀、大分、長崎、熊本、鹿児島、宮崎、名瀬の10地点平均値。九州北部地方は、萩、下関、山口、厳原、平戸、福岡、飯塚、佐世保、佐賀、日田、大分、長崎、熊本、人吉、牛深、福江の16地点平均値。九州南部は、延岡、阿久根、鹿児島、都城、宮崎、枕崎、油津、屋久島、種子島の9地点平均値。奄美地方は、名瀬、沖永良部の2地点平均値。数値は変化傾向（100年または50年あたりの変化（℃））を表す。黄色の項目は、変化傾向が信頼度水準95%で有意であることを示す。

【出典：「気候変動監視レポート2020」（気象庁）、「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」（福岡管区気象台）を基に福岡県作成】

(イ) 真夏日*・猛暑日

本県の位置する九州北部地方では真夏日・猛暑日の長期変化傾向を見ると、日最高気温が 30℃以上の真夏日の年間日数は、10 年あたり約 3.0 日、日最高気温が 35℃以上の猛暑日の年間日数は、10 年あたり約 1.4 日の割合で増加しています。地域別に見ると真夏日、猛暑日の年間日数の増加割合は、10 年あたり福岡でそれぞれ 1.1 日、1.1 日、飯塚で 0.5 日、0.7 日、下関で 2.0 日、0.1 日となっており、地域で差はあるものの確実に増加傾向にあります(図 3-5、表 3-3)。

「九州・山口県の地球温暖化予測情報(第2巻)」によると、福岡県では、将来は現在と比べて、年平均で真夏日は約 63 日、猛暑日は約 35 日増加すると予測されています。なおこの予測は、1980 年～1999 年の 20 年平均値と、2076 年～2095 年の 20 年平均値の差を予測したものです。



青の細線：年々の値、青の太線：5年移動平均、赤の直線：長期変化傾向
統計期間：下関は1927～2020年、福岡は1927～2020年、飯塚は1936～2020年

図 3-5 真夏日(左)及び猛暑日(右)の年間日数の経年変化

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2020」(福岡管区気象台)】

表 3-3 真夏日・猛暑日の年間日数の長期変化傾向

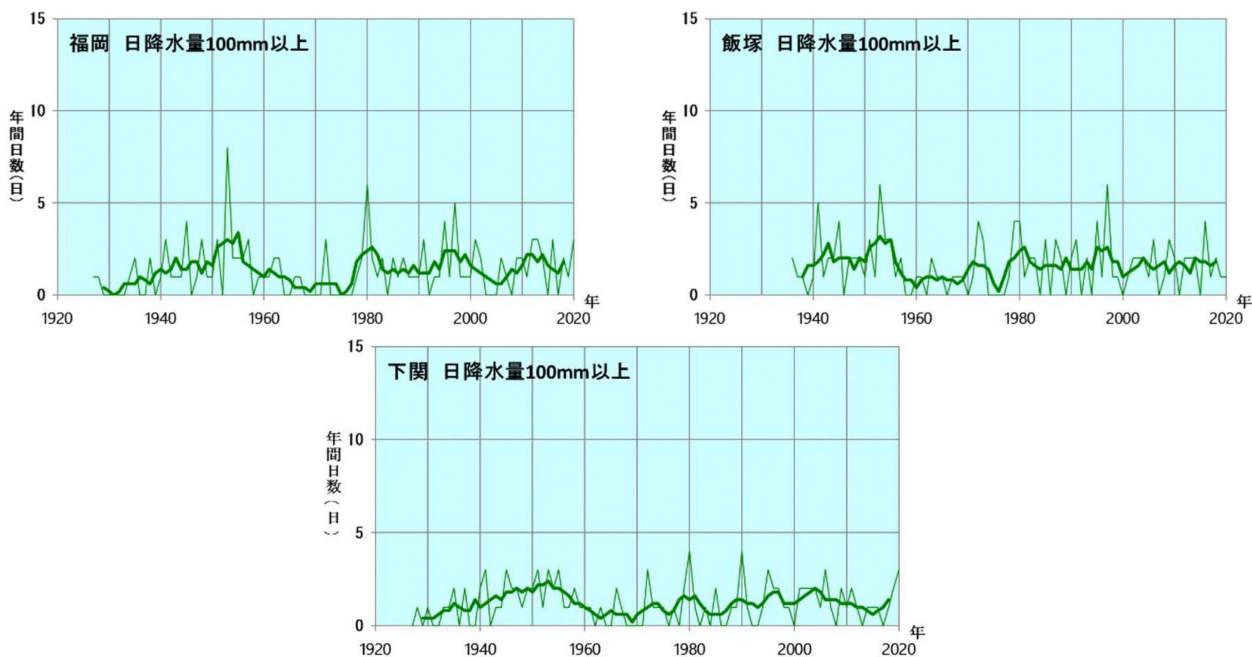
	変化傾向(日/10年)		統計期間 (年)
	真夏日	猛暑日	
九州・山口県	1.6	0.6	1927～2020
九州北部地方	3.0	1.4	1963～2020
下関	2.0	0.1	1927～2020
福岡	1.1	1.1	1927～2020
飯塚	0.5	0.7	1936～2020
九州南部	3.8	0.4	1962～2020
奄美地方	3.8	0.1	1970～2020

※九州・山口県は、下関、福岡、大分、熊本、枕崎、名瀬の6地点平均値。九州北部地方は、下関、平戸、福岡、飯塚、日田、大分、長崎、熊本、人吉、牛深、福江の11地点平均値。九州南部は、延岡、阿久根、都城、枕崎の4地点平均値。奄美地方は、名瀬、沖永良部の2地点平均値。数値は変化傾向(10年あたりの変化(日数))を表す。黄色の項目は、変化傾向が信頼度水準95%で有意であることを示す。

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2020」(福岡管区気象台)を基に福岡県作成】

(ウ) 日降水量 100mm以上の日数

本県の位置する九州北部地方では、日降水量 100mm 以上の年間日数は、100 年あたり 1.8 日の有意な増加傾向がみられます。地域別では福岡県に關係する福岡、飯塚、下関のいずれも明確な変化傾向は現れていません (図 3-6、表 3-4)。しかしながら、全国的には雨がほとんど降らない日の増加と大雨の頻度の増加が認められていることから、本県においても想定すべき気候変化として考える必要があります。



緑の細線：年々の値、緑の太線：5年移動平均

統計期間：下関は 1927～2020 年、福岡は 1927～2020 年、飯塚は 1936～2020 年

図 3-6 日降水量 100mm 以上の年間日数の経年変化

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2020」(福岡管区気象台)】

表 3-4 日降水 100mm 以上の年間日数の長期変化傾向

日降水 100mm 以上	変化傾向 (日/100 年)	統計期間 (年)
九州・山口県	0.8	1927～2020
九州北部地方	1.8	1967～2020
下関	0.3	1927～2020
福岡	0.7	1927～2020
飯塚	-0.1	1936～2020
九州南部	4.2	1962～2020
奄美地方	0.5	1970～2020

※九州・山口県は、下関、厳原、福岡、佐賀、大分、長崎、熊本、鹿児島、宮崎、枕崎、名瀬の 11 地点平均値。九州北部地方は、萩、下関、山口、厳原、平戸、福岡、飯塚、佐世保、佐賀、日田、大分、長崎、熊本、人吉、牛深、福江の 16 地点平均値。九州南部は、延岡、阿久根、鹿児島、都城、宮崎、枕崎、油津、屋久島、種子島の 9 地点平均値。奄美地方は、名瀬、沖永良部の 2 地点平均値。数値は変化傾向 (100 年あたりの変化 (日数)) を表す。黄色の項目は、変化傾向が信頼度水準 95% で有意であることを示す。

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート 2020」(福岡管区気象台) を基に福岡県作成】

(工) 短時間強雨

福岡県における短時間強雨の年間発生回数について有意な長期変化傾向はみられませんが、本県の位置する九州北部地方では、短時間強雨の年間発生回数は“1時間降水量が30mm以上”、“1時間降水量が50mm以上”のいずれにも増加の傾向がみられます(※)(図3-7、表3-5)。

「九州・山口県の地球温暖化予測情報(第2巻)」によると、福岡県では、将来は現在と比べて、年平均で日降水量200mm以上の大雨の年間発生回数は約3倍に増加、1時間降水量50mm以上の短時間強雨の年間発生回数は約2倍に増加するものと予測されています(図3-8)。

このため、本県においても今後、増加の傾向を見込んだ取組を検討する必要があります。

(※) 空間的な広がり小さい短時間強雨などの現象の場合、県単位ではサンプル数が少なく統計的な傾向が出にくくなる。「九州北部地方」などある程度空間的な広がりがある範囲で統計を取ると、有意な増加傾向がみられる。

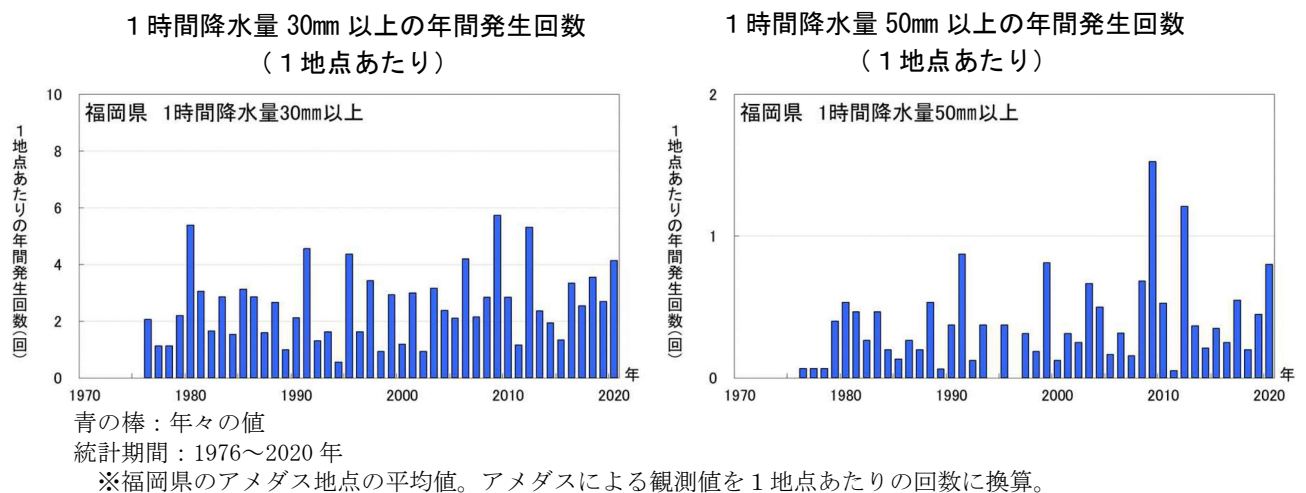


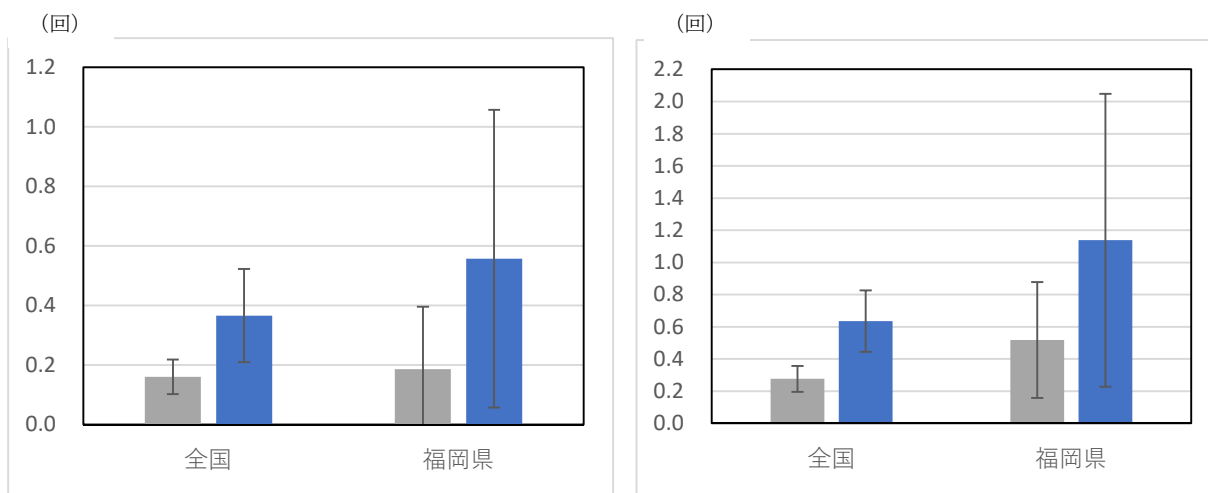
図3-7 1時間降水量30mm以上(左)50mm以上(右)の年間発生回数の経年変化
【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」(福岡管区気象台)】

表 3-5 短時間強雨の発生回数の長期変化傾向

短時間強雨	単位	1時間降水量 30mm以上	1時間降水量 50mm以上	統計期間 (年)
九州・山口県	回/10年	0.34	0.07	1976～2020
九州北部地方		0.22	0.06	1976～2020
山口県		0.10	0.04	1976～2020
福岡県		0.21	0.07	1976～2020
九州南部・奄美地方		0.52	0.09	1976～2020

※九州・山口県は、山口県、福岡県、佐賀県、大分県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県のアメダス地点の平均値。九州北部地方は、山口県、福岡県、佐賀県、大分県、長崎県、熊本県のアメダス地点の平均値。九州南部・奄美地方は、宮崎県、鹿児島県のアメダス地点の平均値。数値1地点あたりの変化傾向（10年あたりの変化（回））を表す。黄色色の項目は、変化傾向が信頼度水準95%で有意であることを示す。

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」（福岡管区気象台）を基に福岡県作成】



灰色の棒：現在気候（※1）における1地点あたりの年間発生回数
 青色の棒：将来気候（※2）における1地点あたりの年間発生回数
 縦棒：年々変動の標準偏差（※3）

※1 現在気候：1980年～1999年の20年平均値

※2 将来気候：2076年～2095年の20年平均値

※3 標準偏差：データの平均値からの散らばり具合（ばらつき）を表す指標

この値が大きいほど、平均値から離れたデータが多く存在することを表している。

図 3-8 日降水量 200mm 以上 (左) 及び 1 時間降水量 50mm 以上 (右) の年間発生回数の将来変化

【出典：「九州・山口県の地球温暖化予測情報 第2巻」（福岡管区気象台）】

(オ) 生物季節現象

福岡のさくらの開花日は10年間あたり、1.8日早く、いちょうの黄葉日は5.3日、かえでの紅葉日は6.6日遅くなっています。下関のさくらの開花日は10年間あたり、1.1日早く、いちょうの黄葉日は3.2日、かえでの紅葉日は3.9日遅くなっています(表3-6)。

表3-6 植物季節現象の長期変化傾向

現象	下関		福岡	
	変化傾向 (日/10年)	統計期間 (年)	変化傾向 (日/10年)	統計期間 (年)
さくら開花	-1.1	1953~2020	-1.8	1953~2020
いちょう黄葉	+3.2	1976~2020	+5.3	1953~2020
かえで紅葉	+3.9	1954~2020	+6.6	1955~2020

黄色の項目は、変化傾向が信頼度水準95%以上で有意であることを示す。

プラス(マイナス)は遅い(早い)を示す。

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」(福岡管区気象台)を基に福岡県作成】

(カ) 海面水温

福岡県周辺海域である東シナ海北部の年平均海面水温は、100年あたり1.25℃の割合で上昇しています(図3-9)。

なお、日本近海の平均海面水温は、世界平均(0.56℃上昇)の2倍を超える割合で上昇しています。

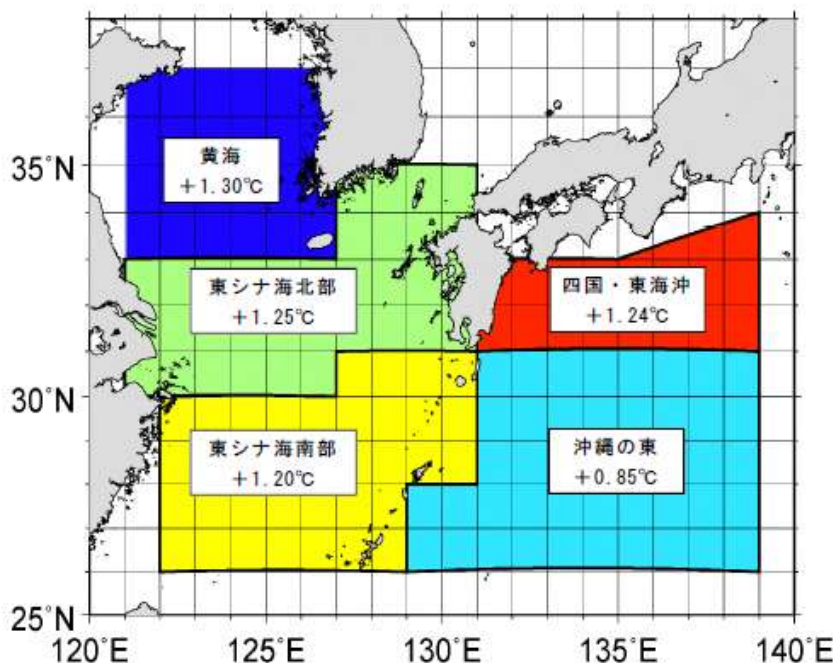


図3-9 九州・山口県周辺海域の海域区分と100年あたりの海面水温上昇率

【出典：「九州・山口県の気候変動監視レポート2020」(福岡管区気象台)】

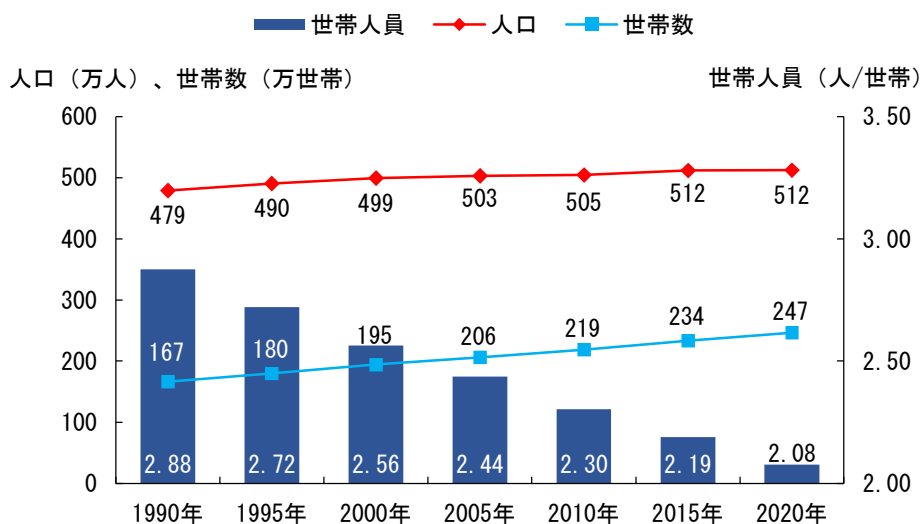
2 社会的条件

(1) 人口・世帯数

2020年における本県の人口は約512万人、世帯数は約247万世帯で、いずれも1990年以降増加傾向が続いています。一方で、単身世帯の増加により世帯人員は減少傾向にあります(図3-10)。

本県の人口は、少子高齢化の進展により、死亡数が出生数を上回る自然減が続く一方、転入数が転出数を上回る転入超過が続いており、社会増が自然減を上回っていることにより増加しています。

ただし人口増加の傾向は長くは続かないことが見込まれており、「第2期福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」によると、2020年以降緩やかに減少に転じ、2040年には480万人前後、2060年には総人口約427～459万人、生産年齢人口率53%程度、高齢化率30～33%程度となることが予測されています(図3-11)。



※住民基本台帳法の改正に伴い、2015年、2020年は外国人住民も含む。

図3-10 人口・世帯数・世帯人員の推移

【出典：「住民基本台帳月報」(福岡県 各年9月末日現在)】

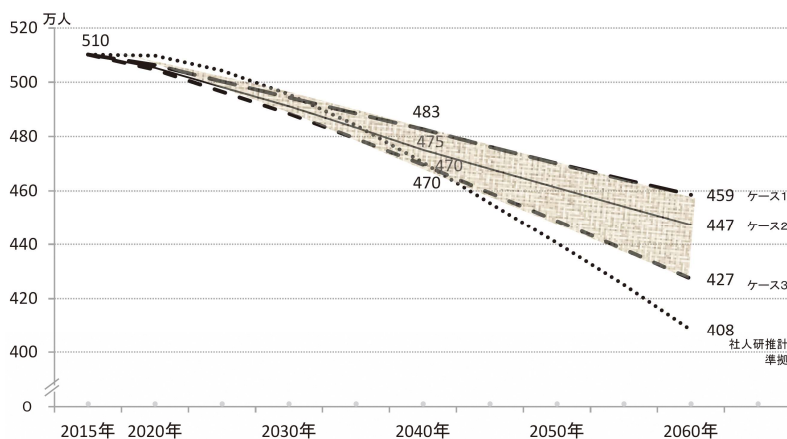


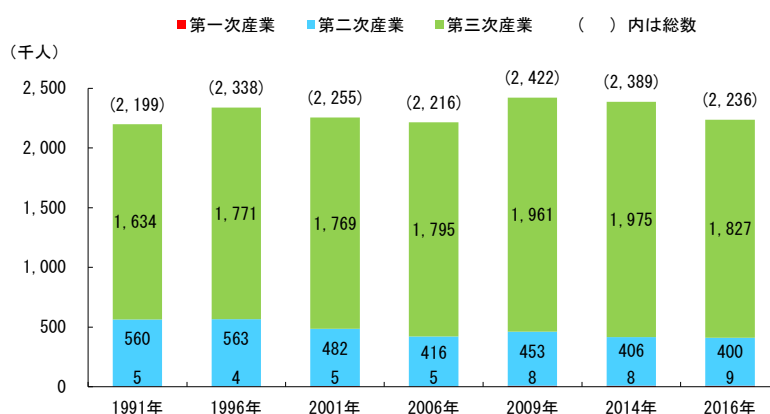
図3-11 福岡県人口の将来展望

【出典：「第2期福岡県人口ビジョン地方創生総合戦略」(福岡県)】

(2) 産業構造

本県の産業大分類別就業人口は、2,100～2,500千人の間で推移しており、第3次産業の割合が最も高くなっています（図3-12）。また、総事業所数に占める第3次産業事業所数構成比も85.1%（全国都道府県第3位：「統計でみる都道府県のすがた2021」（総務省））となっており、第3次産業に依拠した産業構造となっています。

産業大分類別県内総生産は緩やかに上昇しており、2016年度以降は19兆円台で推移しています（図3-13）。



※第1次産業：農林水産業

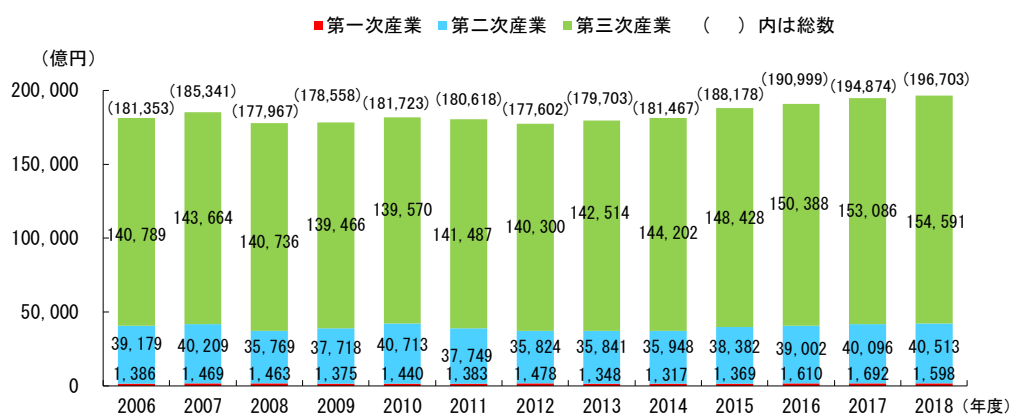
第2次産業：鉱業、製造業、建設業

第3次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、保健衛生・社会事業、その他のサービス

※1991、1996年は福岡県統計年鑑、2001、2006年は事業所・企業統計年鑑、2009、2014年は経済センサス基礎調査、2016年は経済センサス活動調査の数値。但し活動調査の数値には第三次産業に、公務（他に分類されないもの）は含まれていない。

図 3-12 産業大分類別就業人口の推移

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）、「事業所、企業統計調査」（総務省）、「経済センサス」（総務省）を基に福岡県作成】



注：四捨五入の関係で合計が一致しないことがある。

図 3-13 産業大分類別県内総生産の推移

【出典：「県民経済計算（平成18～30年度）（平成23年基準）」（福岡県）】

(3) 農林水産業

ア 農業

本県の農家戸数は2020年に41,351戸で、1990年の約4割に減少しており、関連して農業従事者数や経営耕地面積も減少傾向にあります。農業産出額については、微減傾向にあるものの、全国レベルの生産量を誇る多様な農産物が生産されています。(図3-14、図3-15、図3-16、表3-7)。

また、福岡県の総面積に対する耕地面積比率は2019年度で16.1%であり全国で8番目に高く(「統計でみる都道府県のすがた2021」(総務省))なっています。

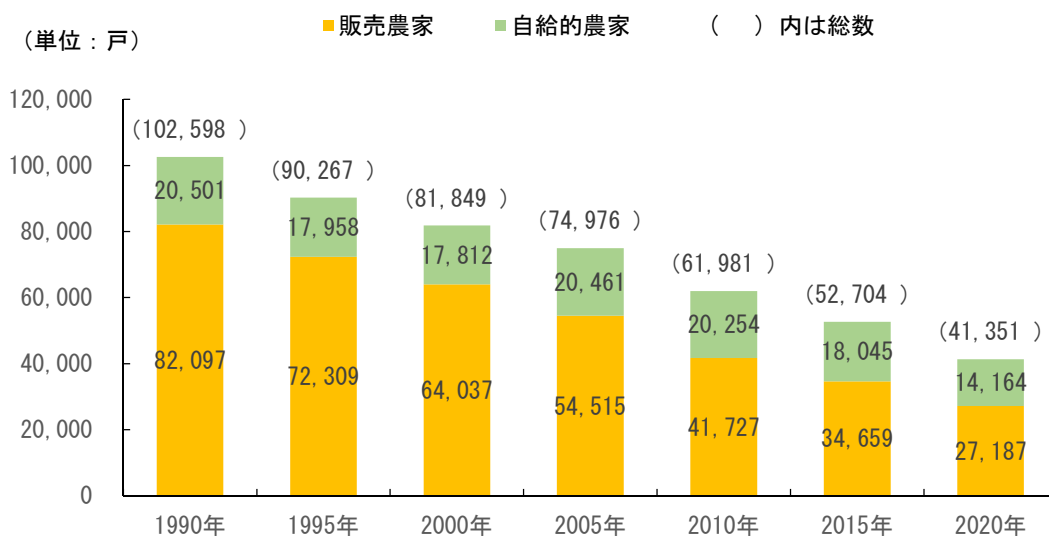
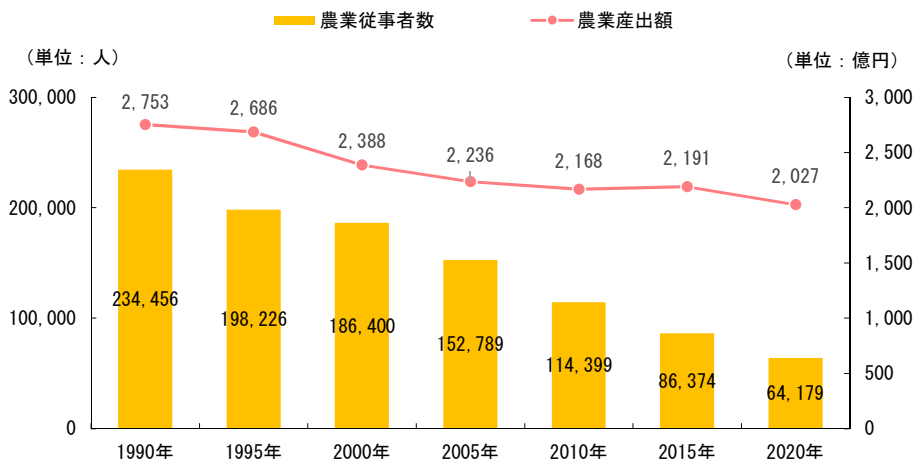


図3-14 農家戸数の推移

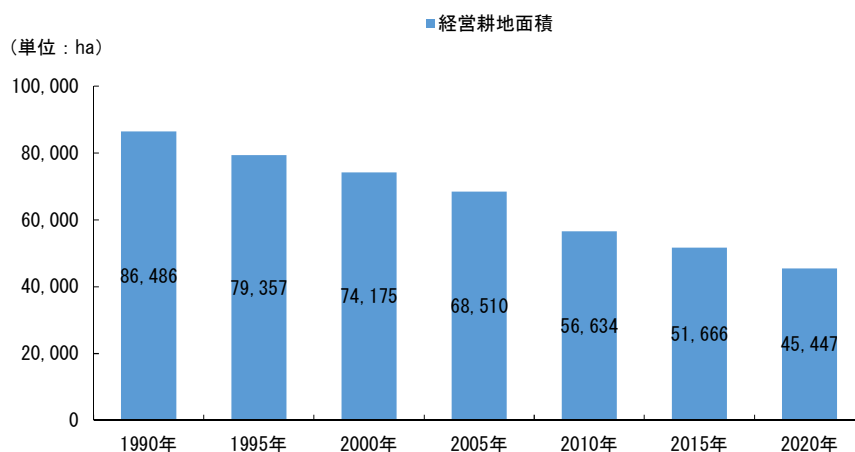
【出典:「農林業センサス」(農林水産省)を基に福岡県作成】



※2015年までは販売農家の、2020年は個人経営体の農業従事者数。2020年の農業産出額は、直近の2019年の数値。

図3-15 農業従事者数、農業産出額の推移

【出典:「農林業センサス」(農林水産省)、「生産農業所得統計」(農林水産省)を基に福岡県作成】



※販売農家の経営耕地面積。

図 3-16 経営耕地面積の推移

【出典：「農林業センサス」（農林水産省）を基に福岡県作成】

表 3-7 福岡県の全国順位が5位以内の主な農産物

順位	品目
1位	種苗・苗木等
2位	小麦、いちご、みずな、キウイフルーツ、洋ラン類（切花）、ガーベラ（切花）、い草
3位	大豆、二条大麦、冬春なす、セルリー、こまつな、かき、きく、トルコギキョウ、洋ラン類（鉢物）
4位	はだか麦、ばら
5位	しゅんぎく、冬春トマト、ぶどう、いちじく、茶

※2021.10.1現在。順位は、種苗・苗木及び茶は生産額、その他は収穫量・生産量による。

【出典：「令和2年度福岡県農林水産白書」（福岡県）を基に福岡県作成】

イ 森林・林業

本県の森林面積は 224,336ha（令和2年度 福岡県農林水産白書 付属統計・資料（林業編））で、県土全体の45%を占めます。森林は水源のかん養*、土砂災害や地球温暖化の防止などの公益的機能を有しており、地域に多くの恵みを与えてくれます。しかし、木材価格の下落による林業の採算性の悪化や林業就業者の減少・高齢化などにより、間伐などの手入れが行われずに放置される森林が増えてきました。

福岡県ではこれらの荒廃した森林を健全な森林に再生させるため、「福岡県森林環境税*」を導入、活用して間伐などの森林整備を行ってきました。再生された森林は、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止などの公益的機能の回復が見込まれます。

また福岡県の林産物には、木材に加え、全国有数の生産量を誇るタケノコ、ブナシメジ、エノキタケなどがあります。

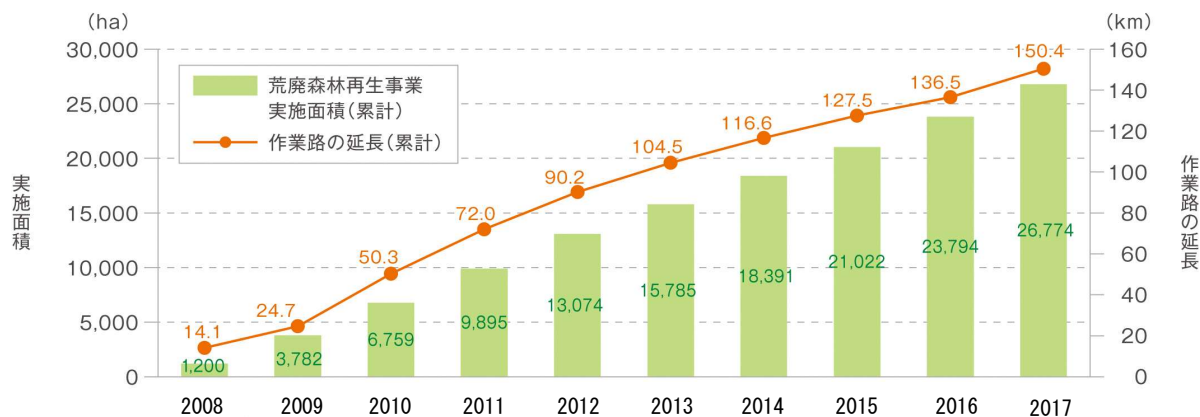


図 3-17 荒廃森林再生事業の実施状況

【出典：「福岡県森林環境税事業報告書（平成 20～29 年度）」（福岡県）】

ウ 水産業

本県では筑前海、有明海、豊前海の特徴の異なる海域と河川・湖沼などの内水面において、多様な漁業や養殖業が行われています。

全国有数の生産を誇るマダイ、ノリなどをはじめ、多様な魚介藻類が水揚げされます（表 3-8）。

表 3-8 福岡県の全国順位が上位の主な水産物（生産量）

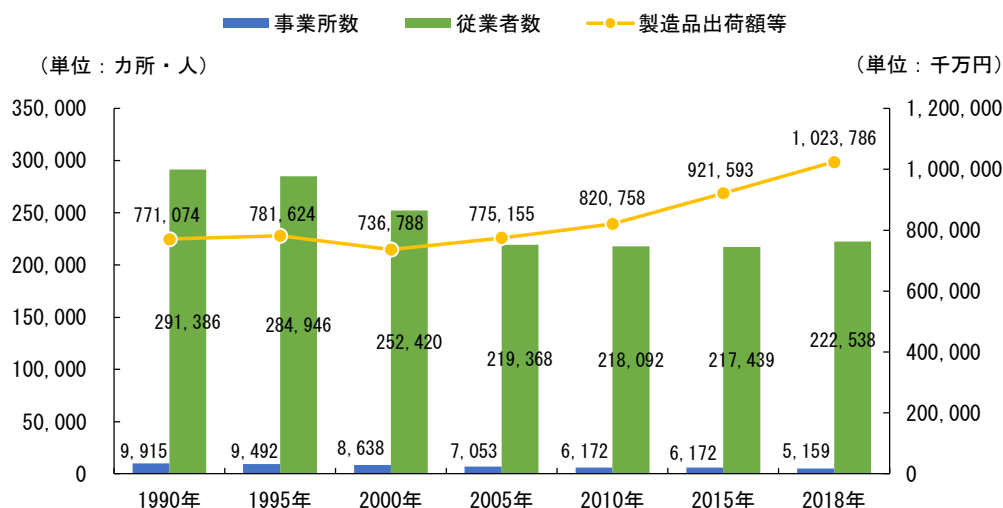
順位	魚種	福岡県	全国
2位	ノリ養殖	12.9億枚	64.6億枚
2位	マダイ	2,045トン	15,953トン
2位	イサキ	335トン	3,359トン
3位	ガザミ類	209トン	2,209トン

※2019年の値を示す。ノリ養殖は2020年養殖年（2020年10月から2021年4月まで）の数値。順位は生産量による。

【出典：「令和2年度福岡県農林水産白書」（福岡県）】

(4) 工業

2018年の事業所数は5,159事業所、従業者数は222,538人、製造品出荷額等は約10兆円となっています。1990年以降事業所数は減少し続けており、現在、1990年時の約5割程となっています。これに伴い従業者数、製造品出荷額等は一時減少がみられたものの、製造品出荷額等は2000年以降に増加に転じ、やや遅れて従業者数も2005年以降、減少傾向が緩和され、2015年からは増加しています。(図3-18)。



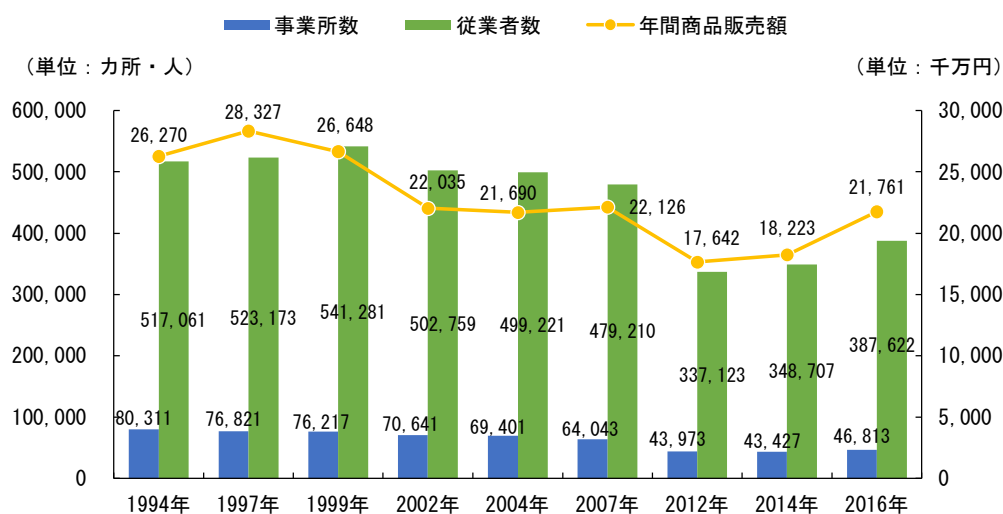
※2015年は経済センサス-活動調査結果(製造業)の数値

図3-18 工業の推移(製造業)

【出典:「工業統計調査」(経済産業省)、「経済センサス」(総務省)を基に福岡県作成】

(5) 商業・サービス業

2016年の事業所数は46,813事業所、従業者数は387,622人、年間商品販売額は約2,000億円となっています。1994年時と比べると事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに減少していますが、経年的にみると2012年以降、年間商品販売額、従業者数が、続いて2014年以降、事業所数の増加が見られます(図3-19)。



※2012、2016年は経済センサス-活動調査結果(卸売業、小売業)の数値

図3-19 商業の推移

【出典:「商業統計調査」(経済産業省)、「経済センサス」(総務省)を基に福岡県作成】

(6) 交通

ア 自動車登録台数

2018年における本県の自動車登録台数は325万台で1990年と比較して大きく増加しています。乗用車及び軽乗用車の台数の伸びが大きく、特に軽自動車では、1990年の約2倍の台数となっています(図3-20)。

また、電気自動車や燃料電池自動車などの低公害車の保有車両数は、平成31年3月末現在で388,092台となっており、全自動車保有台数の20%を占めています。低公害車の保有割合は九州各県でほぼ同じ水準となっており、全国の保有割合の18%と比べると若干多くなっています(表3-9)。

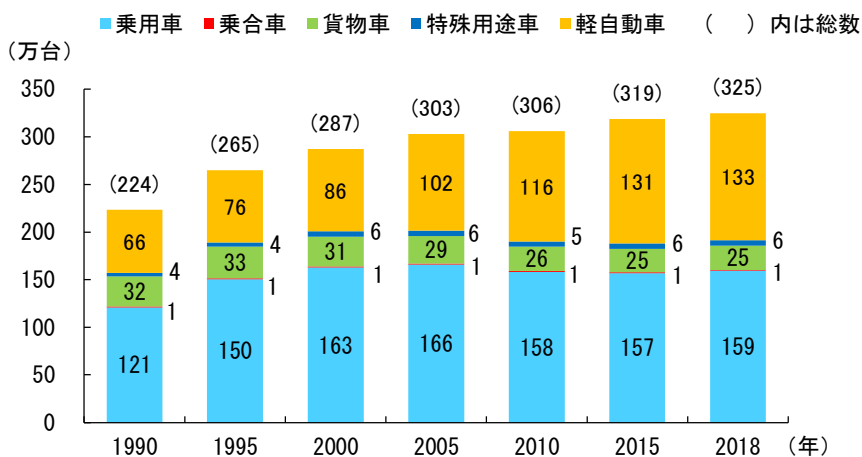


図 3-20 自動車登録台数の推移

【出典：「自動車保有車両数」(一般財団法人 自動車検査登録情報協会)を基に福岡県作成】

表 3-9 九州の低公害車保有台数

低公害車種別	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	合計	全国
電気自動車	6,128	1,255	1,089	1,951	1,886	1,083	1,634	15,026	107,705
燃料電池自動車	110	16	0	1	12	0	0	139	3,036
※CNG自動車	200	29	8	16	0	1	39	293	9,673
プラグインハイブリッド自動車	4,380	851	934	1,729	1,062	741	1,202	10,899	122,127
ハイブリッド自動車	377,274	62,128	78,618	137,852	86,286	81,335	117,957	941,450	8,362,819
合計	388,092	64,279	80,649	141,549	89,246	83,160	120,832	967,807	8,605,360
低公害車保有割合 (低公害車合計/全自動車保有台数)	20%	20%	20%	21%	20%	19%	20%	20%	18%
全自動車保有台数	1,895,148	319,182	405,708	689,167	452,180	431,497	605,506	4,798,388	46,808,196

【出典：「各県別低公害車保有台数 平成31年3月末現在」(国土交通省 九州運輸局)を基に福岡県作成】

※CNG：天然ガス

イ 公共交通機関利用状況

福岡市営地下鉄の1日当たり乗車人員数は増加傾向にあります。西日本鉄道の電車及びバスの1日当たり乗車人員数は、1990年から2005年にかけて減少したものの2005年以降は明確な増減傾向はみられず、3交通機関の合計で2005年以降110～120万人台で推移しています（図3-21）。

また、JR九州の県内上位10駅合計の1日当たり乗車人員数は、21～26万人で推移しています（図3-22）。

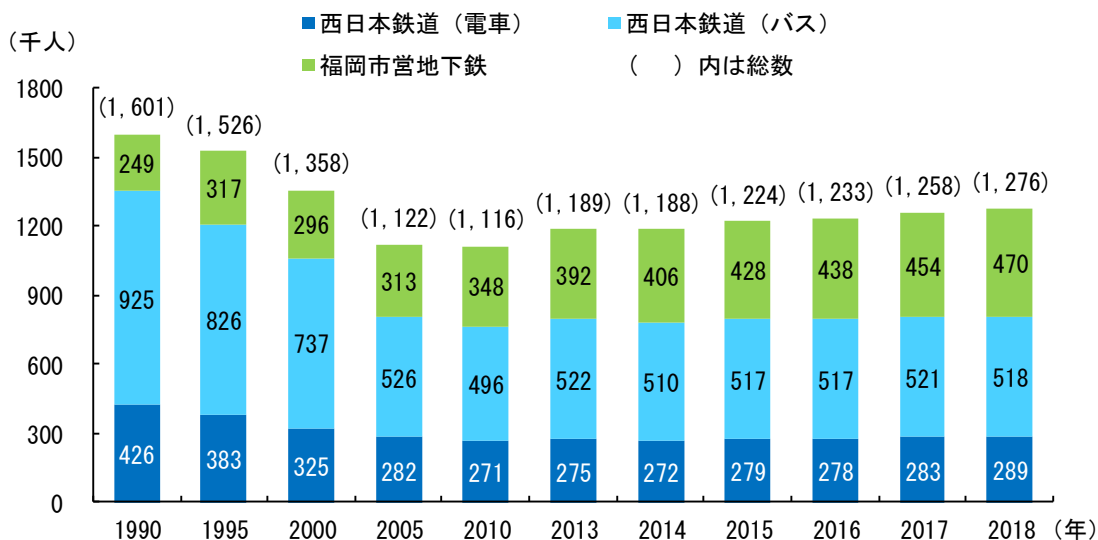


図 3-21 福岡市営地下鉄及び西日本鉄道の1日当たり乗車人員数

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】

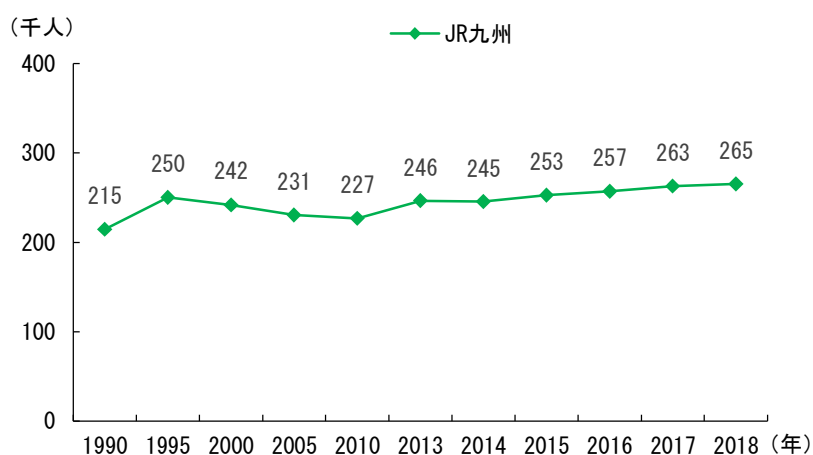


図 3-22 JR九州の1日当たり乗車人員数（県内上位10駅の合計）

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】

ウ 運輸状況

船舶による貨物品の移出入を行っている本県の主な港は、北九州港、博多港、苅田港、宇島港、三池港、大牟田港、若津港、大島港、芦屋港の9港です。1990年以降、9港合計の移入量は、約6,000万t前後、移出量は、約5,500万t前後で推移しており、年当たりの移出入量は1億1,000万tを超える年が続いています（図3-23）。

福岡空港、北九州空港における貨物・郵便の取り扱いは、1990年から2000年にかけて急速に増加し、その後は27万～28万t程度で推移しています。一方、旅客は1990年以降、緩やかな増加傾向にあり、2018年では約2,600万人となっています（図3-24）。

(ア) 船舶

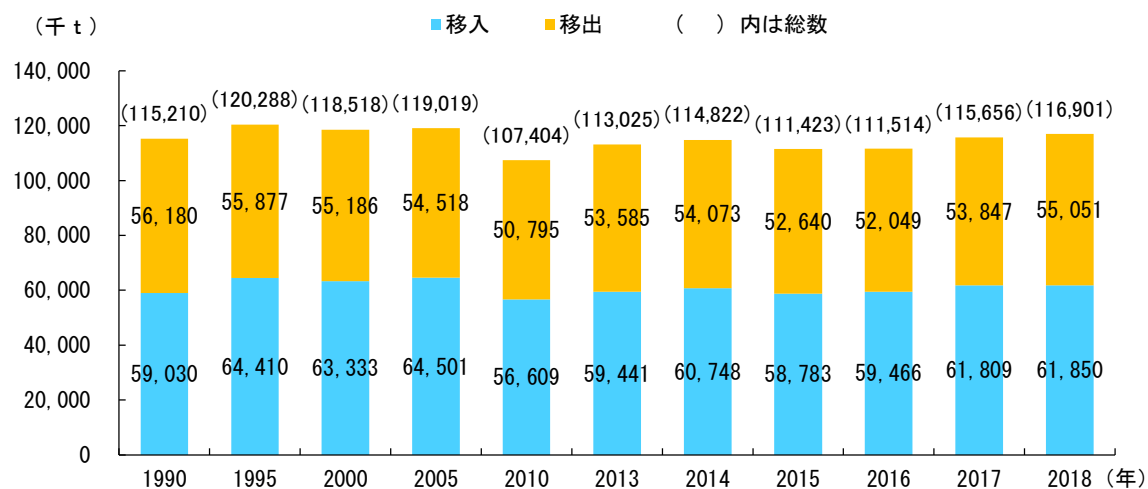


図 3-23 貨物品移出入量

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】

(イ) 航空

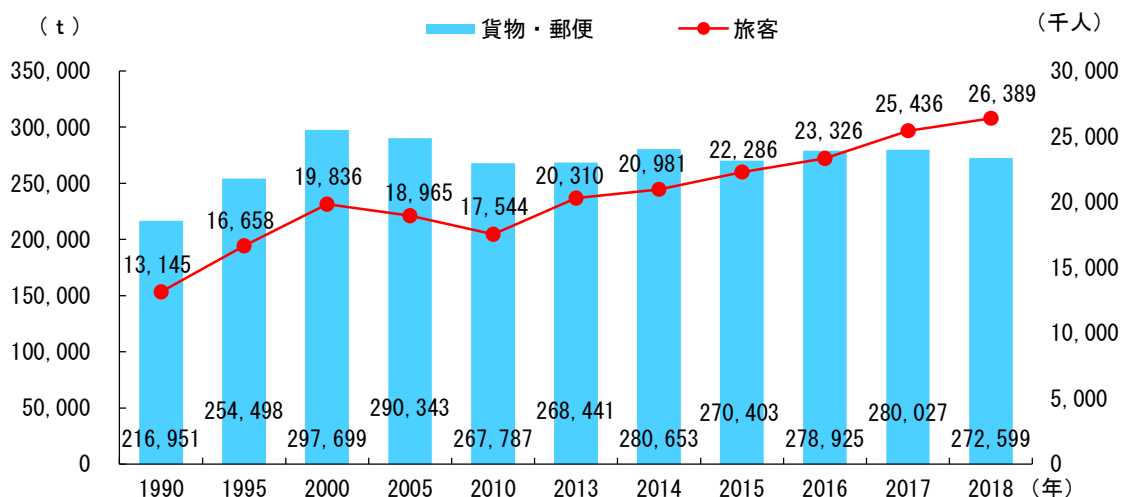


図 3-24 航空輸送状況

【出典：「福岡県統計年鑑」（福岡県）】

(7) 廃棄物排出量

本県の2019年度のごみの総排出量は177万2,000トンで、再生利用率は21.9%になります。経年的には、2012年度以降ごみの総排出量、再生利用率ともに大きな変化は認められません(図3-25)。

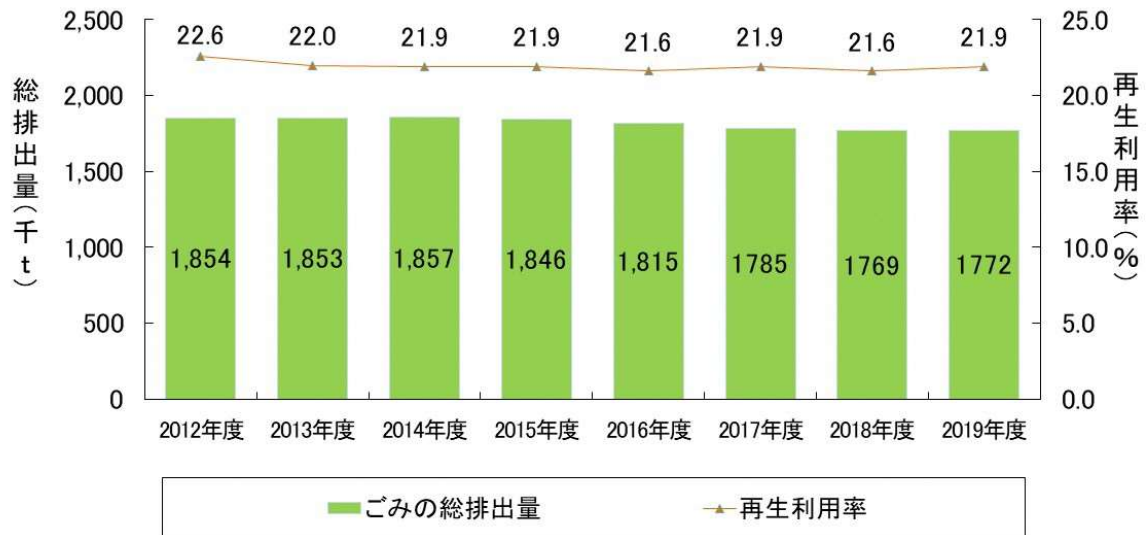


図 3-25 ごみの総排出量と再生利用率

（8）再生可能エネルギーの導入状況

本県の再生可能エネルギーの累積導入量の推移は、図 3-26 のとおりで、年々着実に増加しています。

種類別に見ると、太陽光発電の導入が最も進んでおり、全体の約9割、次いでバイオマス*発電、風力発電、水力発電が残りの約1割を占めています（図 3-27）。

本県の主な再生可能エネルギー施設は図 3-28 のとおりです。

本県では新たなエネルギー社会の実現に向けて地域の特性に応じた多様な再生可能エネルギーの導入を推進することで、エネルギーの地産地消を目指しています。2016年度に策定した総合計画において275万kW（2021年度末）、2019年度に策定した総合戦略において320万kW（2024年度末）の導入目標を設定しています。

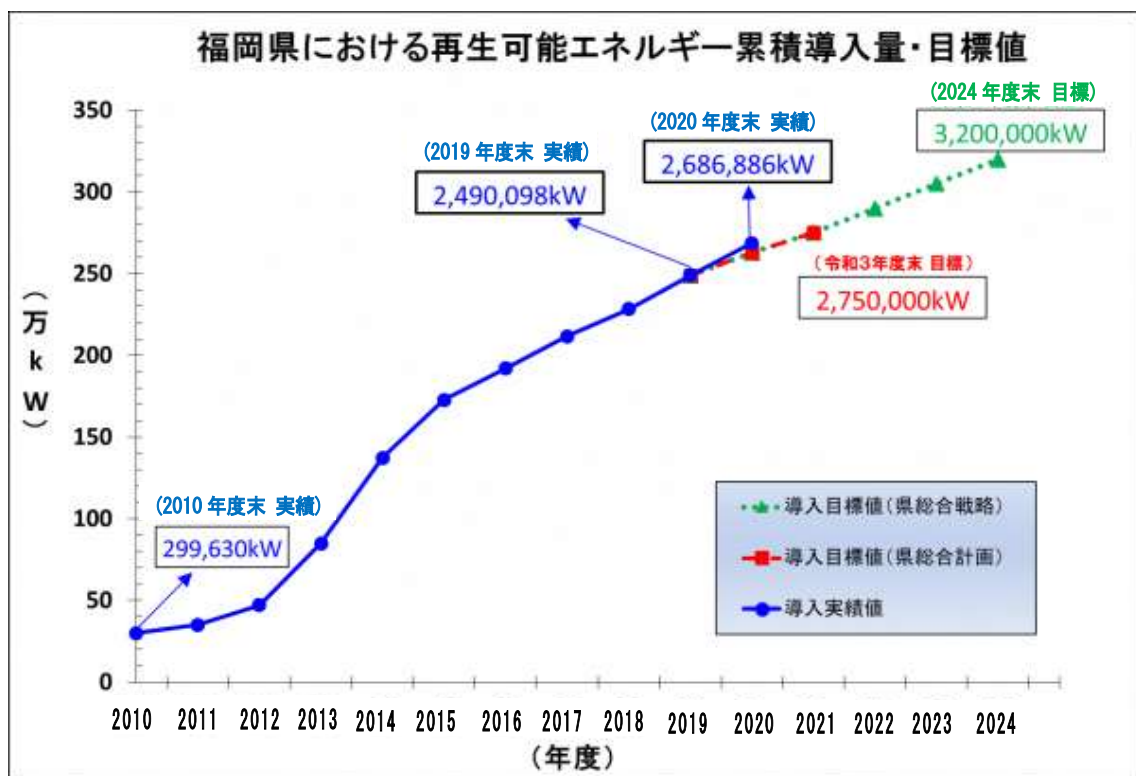


図 3-26 福岡県における再生可能エネルギー累積導入量の推移・目標値

【出典：福岡県ホームページ】

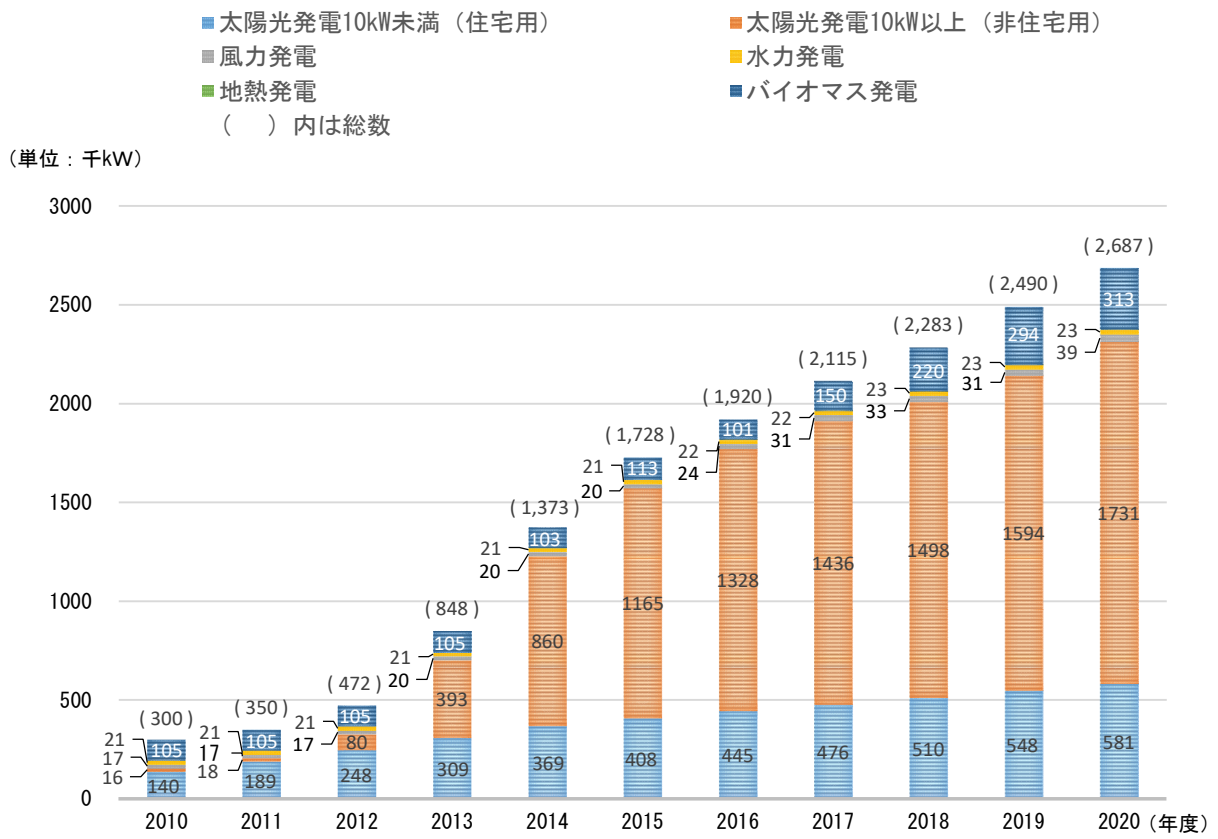


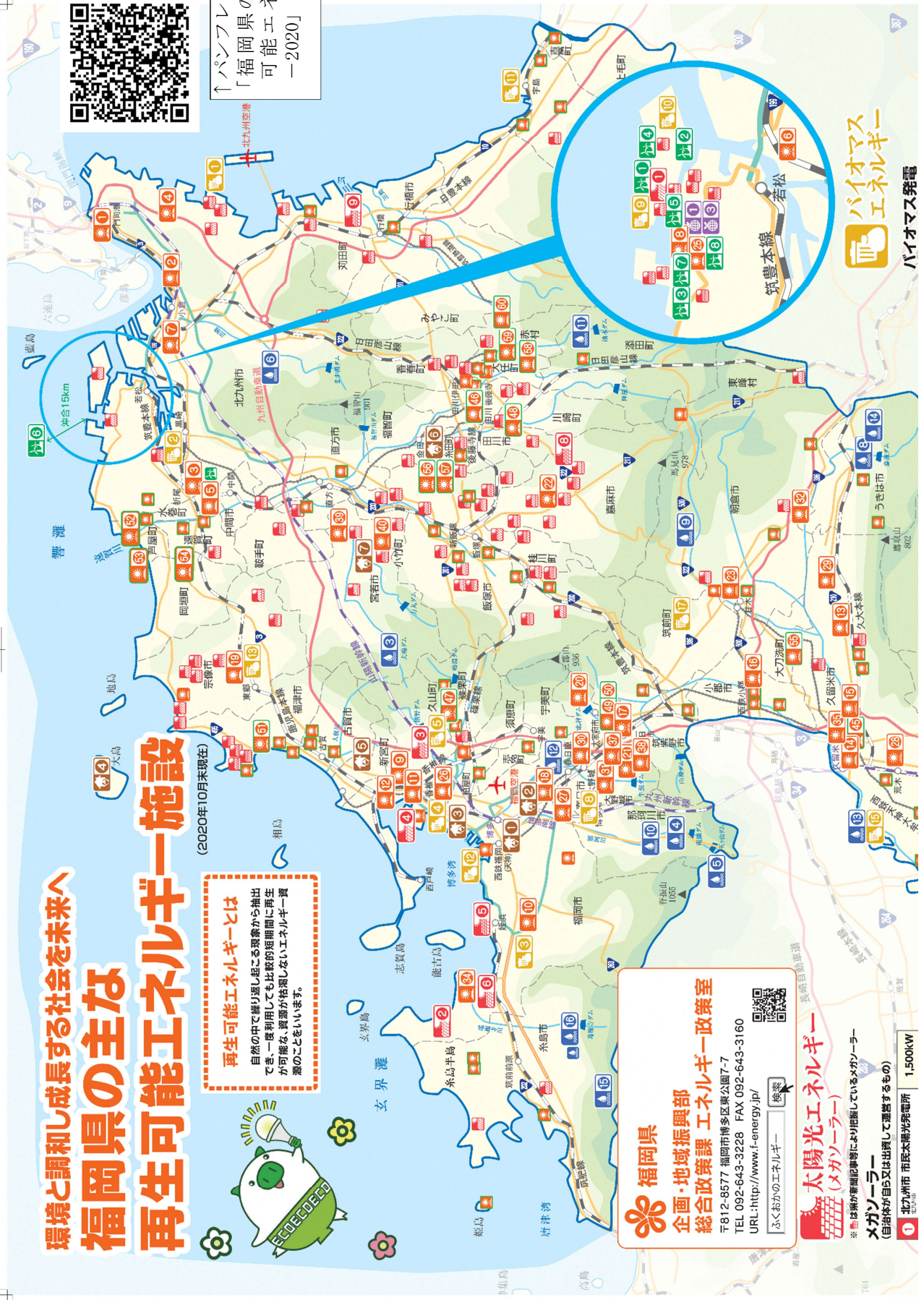
図 3-27 福岡県における再生可能エネルギー発電種類別累積導入量の推移

環境と調和し成長する社会を未来へ 福岡県の主な 再生可能エネルギー施設

再生可能エネルギーとは
自然の中で繰り返し起こる現象から抽出でき、一度利用しても比較的短時間で再生が可能な、資源が枯渇しないエネルギー資源のことをいいます。



↑パンフレット
「福岡県の再生可能エネルギー
-2020」



福岡県
企画・地域振興部
総合政策課 エネルギー政策室
〒812-8577 福岡市博多区真公園7-7
TEL 092-643-3228 FAX 092-643-3160
URL: <http://www.f-energy.jp/>

太陽光エネルギー
(メガソーラー)
※ 県が審判官等により把握しているメガソーラー
(自治体が自ら又は出資して運営するもの)
① 北九州市 市民太陽光発電所 1,500KW

バイオマス
エネルギー
バイオマス発電

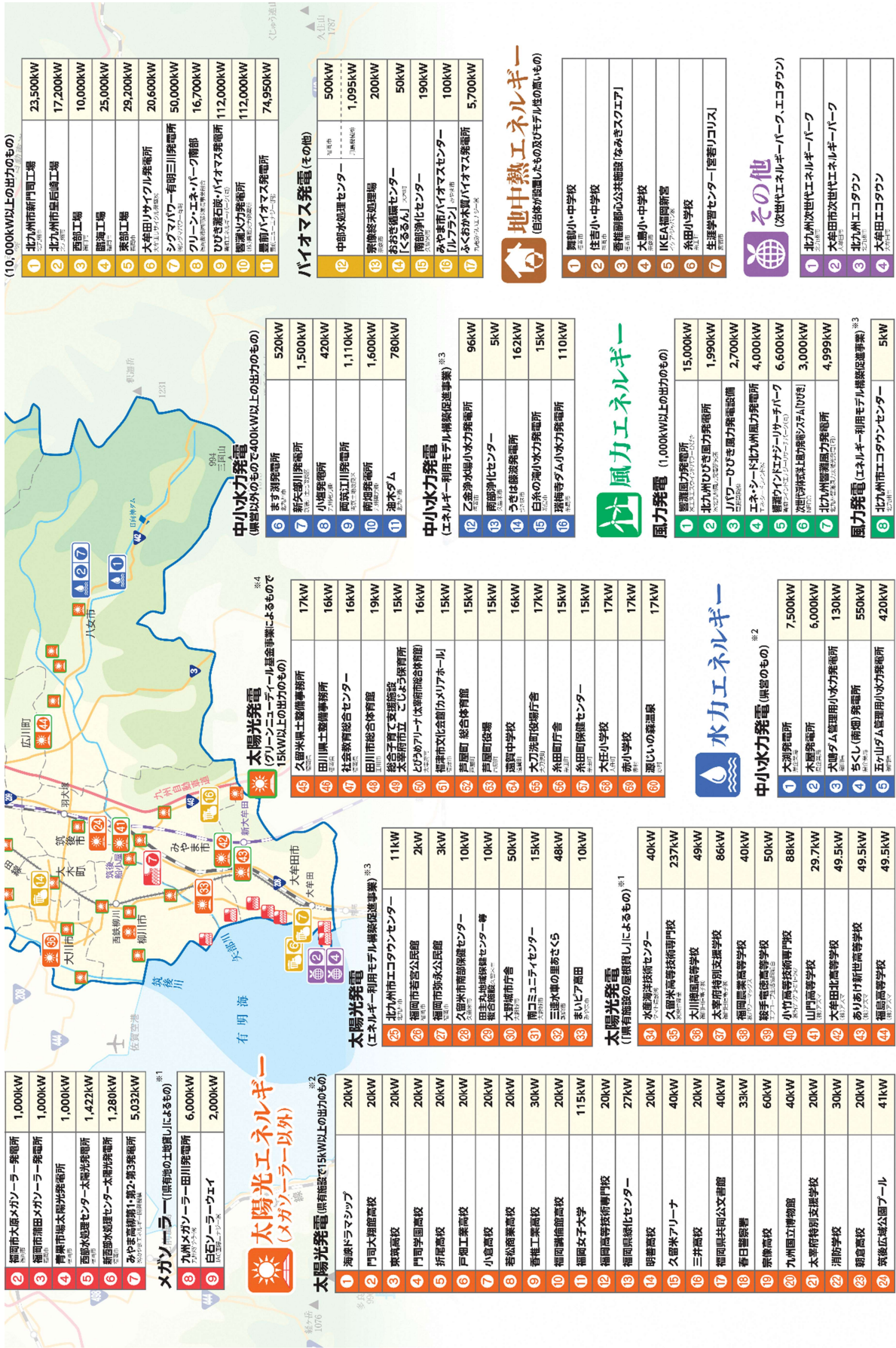


図 3 - 28 福岡県的主要な再生可能エネルギー施設

【出典：福岡県ホームページ】

